

令和3年度 第3回学校運営協議会議事録

校名	大阪府立光陽支援学校
校長名	藤野 洋子

開催日時	令和4年2月 28 日(月)
開催場所	本館1階 図書室
出席者(委員)	宮本 正路(委員) 清水 健司(委員) 清水 桂子(委員)
	リモート参加:小田 浩伸(委員) 文書参加:平賀 健太郎(副会長)
出席者(学校)	藤野 洋子(校長) 前田 真紀子(事務長) 篠川 一樹(教頭) 藤原 克行(首席) 石見 友一(首席) 西井 大介(首席) 佐藤 薫(指導教諭) 辻 美穂(小学部主事) 佐々木 敦子(中学部主事) 澤 綾子(養護教諭)
傍聴者	無
協議資料	下記議題関係資料及び意見書
備考	

議題等(次第順)
<p>(1) 校長挨拶</p> <p>(2) 「第2回授業アンケート」について「学校経営計画」の進捗状況について</p> <p>(3) 「学校教育自己診断」結果と分析状況について</p> <p>(4) 「令和3年度学校経営計画」の達成状況について</p> <p>(5) 「令和4年度学校経営計画案」について</p> <p>(6) 意見交換</p> <p>(7) 教頭挨拶</p>
協議内容・承認事項等(校長より内容説明)
<p>(1) 校長挨拶</p> <p>・コロナ感染症状況は少し落ち着きつつある。府立学校は教育活動を止めずに個別対応していく方向に変換した。まだまだ気の抜けない状況で卒業式も控えていることもあり、一層の対策をやっていきたい。</p> <p>(2) 「第2回授業アンケート」について</p> <p>・参観実施でき、アンケート①は半数以上の回答をいただき、大方、肯定的な結果であった。自由記述では、「参観が実施され、実際の様子をしっかりと見せてもらえたことが良かった」という感想を複数いただいた。またアンケート②については、小中で「連絡帳記載について様子がよくわかり感謝している」「個別の指導計画は大変いいに作成していただき感謝している」、トイレ改修について「トイレがきれいになって良かった」、また「教室を増やしたほうがいいのでは」という意見があった。高からも同様に「参観できてよかった」とあると同時に、指導の様子、環境設定などの点について、子どもの視点に立ったご意見もいただき、それについては授業者にフィードバックし改善を進めている。病弱部は児童生徒への指導の他、保護者に対するの対応についても感謝を述べられる意見があった。たくさんの保護者からの意見を真摯に受け止め、今後もより良い教育活動が実践できるよう改善をすすめていきたい。</p>

(3)「学校教育自己診断」結果と分析状況について

・集計結果の報告を行った。昨年度と比較し肯定的意見が増え、特に肢体部門では情報提供の項目については99パーセント、人権尊重の項目についても88パーセントを超える肯定的意見をいただいた。新たな項目の学校経営推進費でも肯定的意見が多く出ているが、来年度以降も集約しフィードバックしていく。来年度も「人権尊重」、「仕事の効率化・スムーズな引継」と「働き方改革」について継続し重点的に取り組む。

(4)「令和3年度学校経営計画」の達成状況について

・資料及び動画にて報告を行った。光陽 GOGO プロジェクトにチャレンジして取り組んだ1年目として大きく評価している②(3)④(2)。スパイダーと3台目のベビーロコも届き、活動の幅を広げていく。保護者からも関心の声が増えているので、来年度は保護者向けの体験会を実施する予定である。地域に向けての発信もいろいろな形で行っていく。病弱部(総合医療センター)の取り組みについて映像で報告②(2)④(2)した。アバターロボットを用いた取り組みでは、子ども自身がロボットを操作したり、移動したりできる取り組みとなり、受け身だった子どもたちに主体性が生まれ、自信が育っている。市大病院ではコロナ渦において厳しい対応がしかれ、子どもたち同士のかかわりができていない状況だが、その中でできる取り組みを模索している。ゆめいろシューズプロジェクトの取り組みでは、世界にたった一つの自分だけのシューズを誇らしげに家族に紹介するエピソードもあった。大学の教員志望の学生や看護学生に院内病弱部教育についての講義を指導教諭が行った。取り組みを通して、病弱教育について広めていきたい。ボッチャの取り組みでは、コロナ渦で公式戦の場がなくなってしまったが、対外試合をすることでスキルアップの意義を鑑み、『こうやんカップ』の開催を企画した。在校生、保護者、卒業生が参加し白熱した試合が繰り広げられた。優勝した卒業生は強化選手として関西選手権でも活躍している。今後もボッチャ活動の経験を通して、喜びや口惜しさ、うれしさなどさまざまな感情を体験させ自信をつけてもらいたいと考える。

(5)「令和4年度学校経営計画案」について

中期的目標についてご承認いただきたい。軸として光陽 GOGO プロジェクト2年目として、自立活動及びSDGsの取り組みを取り上げやっていく。また新たな取り組みとして①(3)通学バス見守りソリューションシステムの導入に伴い大災害時のマニュアルも変更していく。BCPも策定し危機管理体制の強化をすすめていく。新森地域との連携を強めたい②(2)一人一台端末の導入を受けて、事例を出しながら学校で共有していく③(3)腰痛対策の一貫でもあるが、子どもにとって、教員にとって安心安全な移動支援について多職種チームでの実践に取り組む④発信力ではSDGsプレーヤーとして本校の子どもたちが交流校と連携し、意見交換をしていく実践に取り組む。

(6) 意見交換

下欄に記載

(7) 教頭挨拶

委員のみなさま、1年間ありがとうございました。ここでいただいた意見を来年度の学校経営に活かしていきたいと思えます。

委員からの意見の概要

《委員より》

・大阪市 24 区の社会福祉協議会ではオンラインを活用しての会議開催へ移行する方向が決定している。旭区もオンライン会議を実施するので、新森会館にも今後機器が導入されることになる。感染症の状況によって学

校との地域連携としてオンライン会議も活用できるかと考えている。

- ・大災害時に光陽支援は、新森地区の避難所となっているが、鶴見区緑1丁目に隣接していることもあり、鶴見区からも避難を受け入れる状況が起こるかもしれないが、柔軟に対応をお願いしたい。
- ・一年間の取り組みを見せていただき、多彩な取り組みと子どもたちの生き生きと活動する様子を感じた。自校では3学期の行事がほぼできていない状況だった。このような中でも、光陽支援では、できる取り組みを見つけて実践を進められている挑戦の姿勢については、自校でも参考にさせてもらいたい。発信力がすばらしいと感じる。
- ・地域の方とのつながりや周囲の人の支援をすごく感じられた1年でした。10年前、重度の子どもを受け入れられるデイサービスがなかったことを考えると子どもたちをとりまく環境はよくなってきている。SDGsの取り組みを通して地域に向けての発信が増えると、更に地域の理解や関わりが広がり深まっていくと思う。大災害時のことも気になっていたが、2年前にマニュアルができ、地域との連携も進み、安心した。本当にありがたい。
- ・安心安全を第一にしながら、授業改善に取り組んでこられた結果が、アンケートに現れていると感じた。オンライン学習についてはコロナ禍で前進したよい変化で、今後、ハイブリッドの取り組みにも期待している。
- ・支援学校のミッションであるセンター的機能についても、ニーズや取り組みを含め、大阪府が、現在、再構築しているので、それに合わせて、検討していただきたい。
- ・「学校教育自己診断アンケート」の児童生徒用の各項目については、基本的には「はい」と答えることが望ましい状態だと思う。その中で、4番の「おとなになったときの仕事について、学習することがありますか」については、他の項目と異なるようにも感じた。キャリア教育の視点を含む質問だと思うが、病弱教育の対象となる子どもの中には、「病気は本当に治るのだろうか？退院できるのだろうか？」という気持ちから、「今が大変なのに、そんな先のことまではなかなか考えられない」という気持ちを持っている子どもが少なからずいる。そのような子どもには、まずは今を楽しみ、「教室の中で病気や将来の不安のことを忘れられる時間を提供し、今の瞬間を充実させる中で、その結果として仕事や将来のことも考えられる可能性」という視点も重要なように思う。
- ・現在、どの学校でも教育の形に大きな変化が生じている。光陽支援の学校経営計画及び学校評価の全体を拝見して感じるのは、コロナ禍に左右されず、子どもたちの学びを保障したり、充実したりするために行われてきたこと、あるいは現在行われていることは、すべての学校の参考になるように感じる。様々な制限が多い中で、これだけの工夫や成果をあげられていることに感服した。

次回の会議日程

日時

令和4年6月予定

会場

大阪府立光陽支援学校 本館1階 図書室